

【政策 4】産業・交流

【施策 4－1】



持続可能で多様な小諸の「農」と「森林（もり）」を
目指します

主管課：農林課

◆現状と課題

小諸市の農業は、多様な生産品目や生産規模が特徴となっています。近年は、兼業より小規模で出荷を伴わない園芸を楽しむ耕作者（農ライフ）も積極的に位置づける必要性も急激に高まっています。耕作条件においても、土地利用型農業により経営が確立できる地域や一連のほ場から、急傾斜不成形といった耕作条件の厳しい地域まで様々な状況となっています。

土地利用型農業では、稼ぐ力を高めるためには認知・訴求を高め、産地形成による市場等への発信が求められています。耕作条件が不利な地域では、小規模多品目生産となっているため高単収となる品目・生産形態への移行検討と併せて農ライフによる農地維持や農村の活性化に期待が高まっています。

超高齢化や後継者不足、農道や用排水路といった農業用施設の老朽化は共通の課題で、農地の遊休化・荒廃化は加速度的に進行している状況となっています。

国有林を除く森林は、林業経営に向かない小規模な森林が多く、林業経営による森林の維持は難しい状況となっています。

◆方針（目的）

- ・食料と農業は生活に欠かせない基盤で、特に小諸市は農産物が豊かで良質である強みがあるため、ブランド化により訴求力を図っていきます。特に高品質な農産物を理解してもらうために「食」を通じた情報発信を強く進めていくこととします。

- ・生活の基盤である農産物を安全・安心に食することができるよう地産地消を進め、特に農業・農村の文化や歴史とともにこどもたちへ届ける取組を推進します。

- ・集積や集約を含めた優良農地の維持が安定的な農業経営のために不可欠なため、農業用施設の計画的な改修等を進めます。

- ・高単収品目の推進では、品目の選定・スマート農業の活用・新たな栽培形態等 JA や関係企業との連携による取組を進めます。

・農地・農村の活性化を図るため、「農ライフ」の観点による帰農を含めた新たな人材の確保を図ります。

・森林（もり）整備では、小規模森林整備を進めるために経営管理計画策定を林業事業体と連携し進めます。

◆目標

①小諸の農全体・個別の農産物・農ライフ等の認知度を「食」を通じた手法で強力に高めるなど、ブランド化がそれぞれスパイラルアップできる状態

②「食」生活は特にこどもの成長では大切であるため、地域農業・農産物で安心感を得られる状態

③専業（的な）農業経営では、産地と優良農地の維持・発展による安定的な経営と高単収作物の移行が進んでいる状態（女性の活躍など多様な担い手が活躍している状態）

④農ライフを中心に多様な農地利用や農村での様々な活動が活性化されている状態

⑤森林（もり）では、森林経営管理制度による取組が計画的に進んでいる状態（森林所有者が自身の森林管理への関わり）

◆目標値

①	指標名	遊休地面積				
	設定理由	持続的な農業ができていれば遊休荒廃化は進行しないため				
	目標値	令和5年度(現状値)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
		305ha	310ha	310ha	310ha	310ha
	算出根拠(現状値)	毎年実施する農地利用状況調査の結果（1号遊休農地）				
②	設定根拠(計画値)	高齢化の進行、後継者不足に耕作条件の悪さから、現状では遊休荒廃地化が進行基調であるため現状維持は野心的な目標値（調査状況の変動があったため令和3年～5年度の平均を目標値に設定）				
	指標名	森林経営管理計画に基づく森林整備が開始された地区数				
	設定理由	森林所有者の意向による計画的な森林整備が不可欠なため				
	目標値	令和5年度(現状値)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
		0地区	1地区	1地区	2地区	2地区
	算出根拠(現状値)	小諸市森林整備計画に基づく森林経営管理制度の取組計画				
	設定根拠(計画値)	同取組計画の実績値				

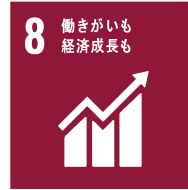
◆主な事業

事業名	事業のねらい
機構集積支援事業	施策4-1目標①
農業農村振興事業	施策4-1目標①
中山間地域等直接支払事業	施策4-1目標①
農産物ブランド化事業	施策4-1目標①
土地改良事業	施策4-1目標①
多面的機能支払交付金事業	施策4-1目標①
野生鳥獣保護・管理事業	施策4-1目標①
森林環境整備事業	施策4-1目標②

◆個別計画

地域計画（農業経営基盤強化促進法関係）／農業農村振興地域整備計画／農業経営基盤の強化の促進に関する基本方針／森林整備計画

【政策 4 産業・交流】



【施策 4－2】

地域の強みを活かした企業誘致とビジネス集積を強化し、地域経済の活性化を図ります

主管課：商工観光課

◆現状と課題

首都圏からの良好なアクセスと、歴史遺産や美味しい食文化の適地としての認知度、豊かな自然環境や8源泉10か所の温泉など、人の心に響く魅力的な資源が沢山あります。

また、軽井沢エリアとしてのブランド力など、企業が求める一定条件を備えた地域として、積極的な企業誘致を進めています。しかし、企業誘致として提供できる自己所有地がないため、新産業団地の整備は急務です。

物価高騰による経済支援が続くなか、持続的な地域経済を構築するためには、既存企業や新規起業者への支援、商工会議所と連携した企業・創業を積極的に支援する必要があります。

◆方針（目的）

地域の強みを活かした積極的な企業誘致・ITビジネス集積は、的確なニーズの把握による信頼度の高い営業を行うとともに、競争力をさらに高めるための新産業団地の整備を着実に進める必要があります。

また、既存企業の事業拡大や技術力向上への支援に引き続き注力するほか、今後、絶対的に必要となるデジタル人材の雇用確保、事業所のIT業務拡大等を契機に女性が活躍できる仕事の支援など、子育て世代が安心して働くことができる職場づくりを、商工会議所と連携して支援します。

さらに、専門性が高いITエンジニアの育成と人材の雇用促進をすることにより、事業者の業務改善と就労支援を促します。

市独自の取組である信州小諸ジョブセンターを積極的に活用しながら、地域内のみならず地域外からの担い手づくりとしての人材誘致にも積極的に関わることにより、地域経済の新しい担い手を確保します。

◆目標

- ①地域住民だけでなく、移住者など地域外ニーズにも応えられる就業先がある状態。
- ②起業・創業により新たな事業活動や遊休不動産等の活用など経済効果が生じる状態。
- ③継続的な支援により、物価高騰の影響による地域経済の落ち込みを改善した状態。

◆目標値

①	指標名	企業立地数				
	設定理由	新規企業の立地や既存企業の増設は、新たな雇用の創出と税収など財政力の強化に直結するから。				
	目標値	令和5年度(現状値)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
		11件	5件以上	5件以上	5件以上	5件以上
	算出根拠(現状値)	新規立地9件、増設2件				
②	設定根拠(計画値)	企業立地数は景気動向に左右されるが、新規立地及び増設で5件以上を目標として取り組む				
	指標名	市内での起業・創業件数（小諸商工会議所「創業塾」「チャレンジ企業相談室」における件数）				
	設定理由	起業・創業により経済の担い手が増え、事業活動や消費行動が広がることで地域経済が活性化するから				
	目標値	令和5年度(現状値)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
		23件	15件以上	15件以上	15件以上	15件以上
	算出根拠(現状値)	目標値16件に対し23件の実績であった				
	設定根拠(計画値)	直近3年間の起業・創業者のフォローを行いながら、目標件数を15件以上として起業・創業支援を行う				

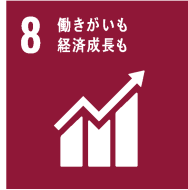
◆主な事業

事業名	事業のねらい
労働振興事業	施策4-2【目標】①②③【連携】施策1-2、4-1、4-3、6-1
商工業総合振興事業	施策4-2【目標】①②③【連携】施策1-2、4-1、4-3、6-1、6-2
制度融資事業	施策4-2【目標】③【連携】施策4-1、4-3
企業立地推進事業	施策4-2【目標】①②③【連携】施策1-2、4-1、4-3、6-1、6-2

◆個別計画

【政策 4 産業・交流】

【施策 4－3】



暮らしやすさや地域の魅力を発信し、移住・観光交流人口の増加とまちづくりの担い手育成を進めます

主管課：商工観光課

◆現状と課題

良好なアクセスと豊かな自然環境、浅間山や懐古園を中心とした小諸ならではの観光など、観光誘客や移住・定住につながる地域の魅力は一定の評価を受けていますが、効果的なプロモーションなどの情報発信や素材づくりに課題があります。観光面では、こもろ観光局と連携した「観光地域づくり」の具体化や動物園再整備による懐古園の魅力アップなど、各事業者が一体となった誘客の取組が必要です。

あわせて、人口減少対策として移住・定住をさらに進めるためには、充実した素材の提供が課題であり、時期にあった新たな視点を持ちながら、より踏み込んだ取組とする必要があります。

◆方針（目的）

こもろ観光局と連携し、地域が持つ小諸市でしか味わえない魅力的な観光を効果的に伝え、ブランド力を活かした情報発信を進め観光誘客を図るとともに、地域資源の活用による新たな観光素材の掘り起こしなど観光地域づくりを進めます。

懐古園は、「学ぶ」「遊ぶ」「楽しむ」が揃った貴重な施設で、特に動物園は、子育て家庭に届けられる貴重な財産と言え、動物園を再整備することにより、子育て環境の充実と憩いの場を提供します。あわせて、動物園開園 100 周年に関連したイベントを実施することにより、懐古園全体の魅力向上と一層の観光誘客を促します。

また、日本文化や歴史、自然を愛する内外からの旅行者やインバウンドをターゲットにした観光戦略を立て実践します。

移住・定住促進において、民間事業者の視点を持ちながら誘致活動を行い、移住希望者へ農ライフ事業などの新たな移住施策を促すことで、小諸ならではの選択肢を増やします。

また、人口減少対策を見据えたまちづくりの担い手育成として、人材誘致の観点も持ち積極的に進めます。

◆目標

- ①事業関係者や地域住民が地域の強みや魅力を認識し、連携した誘客に取り組む状態
- ②新築住宅着工数や空き家バンク物件成約件数が向上し、移住・定住が増えた状態
- ③継続的な支援により、物価高騰の影響による消費の落ち込みを改善した状態

◆目標値

①	指標名	新築住宅着工数と空き家バンク契約数				
	設定理由	この数値の向上が定住人口の増加につながるため				
	目標値	令和5年度(現状値)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
		136件	120件	120件	120件	120件
	算出根拠(現状値)	新築着工数125件 + 空き家バンク契約数11件				
②	設定根拠(計画値)	今後の景気動向などを踏まえ、新築着工数110件と空き家バンク契約数10件を目標として取り組む				
	指標名	市内宿泊者数				
	設定理由	小諸市での宿泊者数を観光やビジネス活動の物差しとして捉え、観光産業等の回復を図るためには、この数値の回復、増加が必要となるから				
	目標値	令和5年度(現状値)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
		122,135人	123,000人	123,500人	124,000人	124,500人
③	算出根拠(現状値)	市が実施する市内宿泊施設聴き取り調査の暦年統計（1月～12月）				
	設定根拠(計画値)	新型コロナウイルスの影響で落ち込みが続いていたが、令和元年度の宿泊者数を上回り、さらにインバウンド誘客を促すことにより宿泊者数の増を見込むため				
	指標名	住みよさランキングの全国順位				
	設定理由	全国順位があがれば小諸市の魅力アップにつながり、移住者の増加につながるから				
	目標値	令和5年度(現状値)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
		26位	30位以内	30位以内	30位以内	30位以内
	算出根拠(現状値)	全国812市区が対象で、安心度・利便度・快適度・富裕度の4つの視点から偏差値を算出し、すべての指標の偏差値を平均して順位付けたもの（出典：東洋経済新聞社）				
	設定根拠(計画値)	引き続き小諸の魅力向上を図り、目標順位を30位以内として維持向上を目指す				

◆主な事業

事業名	事業のねらい
布引温泉管理事業	施策4-3【目標】①③【連携】施策4-1、4-2
まちなか活性化施設運営事業	施策4-3【目標】①②③【連携】施策4-1、4-2
観光振興事業	施策4-3【目標】①③【連携】施策4-1、4-2、6-1、6-2
観光施設運営事業	施策4-3【目標】①③【連携】施策4-1、4-2
移住・定住促進事業	施策4-3【目標】①②③【連携】施策1-2、4-1、4-2、6-1、6-2
観光地域づくり事業	施策4-3【目標】①③【連携】施策4-1、4-2、6-1、6-2
懐古園運営事業	施策4-3【目標】①③【連携】施策4-3、6-1、6-2

◆個別計画

観光地域づくりビジョン／動物園再整備基本計画